

摩挾提无界

以度彼岸如來常在三昧常一威儀乃

如來无量百千億劫脩集所得无有眾生能學

分別知其量二者如涅槃經十号十方一切佛階

有十号二号階志盡虚空遍法界三者觀

味海經說如來真身非是凡夫心想境界但

如來大慈大悲生隨喜心得无量福

第二段明下佛徹上者有三種一者如來藏佛性體

恒沙功德與真佛无別二者當現現雖未具恒沙

功德當來具足恒沙功德與真无別三佛想佛初

眾生雖非現佛想同真佛與真佛真身无別別

佛法者得聖已去具足行之三者先學體佛法後

學相佛法四者先學根本佛法後學枝條佛法

對根起行法斷簡 解説

高雄 義 堅

本寫經は、縦二三・五糎、全長六米三〇糎（二丈八寸）の卷子本斷簡にして、首部を缺き、終りに人集録於十二部經修多羅内驗出對根起行法一卷の尾題がある。隋代初唐前後の筆録と推定せられる。今本書を矢吹慶輝博士著『三階教之研究』所載のスタイン寫本第一斷片と比較すると、スタイン本は首尾略ぼ完結して、龍大本の約三倍の長さを有し、しかも「人集録於十二部經修多羅内驗出對根起行法一卷」なる尾題がなくて、之に代わるに「又明上末五門……亦永滅一切法界惡盡」の一百九十字が加えられている。

次にスタイン本の内容は（一）乘三乘の普別不同を論ずる一段（二）三階内に於て機教相應、即ち對根起行を説くに五段明義を以てする一段（三）明依修多羅内學發善提心見法行法分齊義なる一段の三段より成り、第三段の所明は凡そ次表の如くである。



